

日韓トンネル通信

編集/発行

特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会

本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20
〒106-0041 麻布台ユニハウス513
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：0120-09-2188

(報告) 韓国のテグ(大邱)広域市で開かれた「日韓海底トンネル専門学会セミナー」に参加しました。

昨年10月11日(木)、韓国テグ(大邱)広域市のEXCO(大邱展示コンベンションセンター)で「日韓海底トンネル専門学会セミナー」が開かれ、野澤太三会長が討論者として参加した。

韓国では昨年2月にソウルの国会議員会館で「日韓海底トンネルセミナー」が開催され、続く5月には釜山でシンポジウム「日韓海底トンネルと釜山の選択」が開かれるなど、日韓トンネルへの関心が高まっている。

今回のセミナーは社団法人大韓土木学会の主催で、「日韓海底トンネル建設は可能性はあるのか」をテーマとして、土木関係者に日韓トンネルの理解を広めることが目的である。

午後2時40分に消防防災庁のムン・ジョ



セミナー会場となった展示コンベンションセンター

ンシク(文正植)氏の司会で3名の発表者の主題発表が始まった。

まず、ホ・ジェワン(許在完)韓国中央大学都市地域計画学科教授は「日韓海底トンネルの国土波及効果の検討」というテーマで発表し、「日韓トンネルは、トンネルが立地する釜山圏地域の立地経済力を大きく強化することにより、韓国の国土空間構造を多角的な構造に転換させる始発点になりうる」と強調した。



ホ・ジェワン教授



イ・ジョンチュル教授



シン・ジャンチョル教授

次にイ・ジョンチュル釜慶大学建設工学部教授は、「日韓海底トンネルの土木工学的展望」というテーマで発表し、「日韓海底トンネルは国民的合意の下で推進されなければならない、短期的な景気浮揚政策や南北の和解の雰囲気に乗っかってはならず、今後100年以上を見通して国益となるかどうかを判断して推進されなければならない」と指摘した。

次に、シン・ジャンチョル(申章澈)崇実大学社会科学部日本学科教授は、「北東アジア



ア繁栄のための日韓間の海底トンネル建設」というテーマで発表し、「アジア、ヨーロッパを繋ぐユーラシア鉄道網の建設で、経済効果はもちろん、南北統一、北東アジアの緊張緩和と政治的安定のためにも日韓海底トンネルが必要」と主張した。

発表に続き、討論者としてアン・ヨンモ（大邱市庁政策開発担当官）、チョン・ホニョン（釜山市交通審議委員）、野澤太三（当会会長）各氏が加わり、パク・キョンブ（朴慶夫）



アン・ヨンモ氏



チョン・ホニョン氏



野澤太三会長

社団法人韓日海底トンネル研究院理事長を座長として討論が始まった。

アン氏は「韓国が経由地になるので韓国の国益を考えた慎重な対応が必要」と述べ、チョン氏は「日韓トンネルの出入り口は釜山のソンサン（星山）地域が望ましい」と具体的に提案した。野澤会長は、「ユーロトンネルをモデルにどう使うかを見据えた上で

物流基地などを考慮してルートを絞り込むべきで、その作業は韓国側がイニシアチブをとるべき」と語った。

これに対し発表者のイ・ジュンチュル教授は「使用方法を前提に路線を選定するという野澤会長の意見に賛成」と述べ、同じく発表者のシン・ジャン Chol（申章澈）教授は「東アジア全体の利益のために政治的決断すべきだ」と主張した。

ソウル、釜山、テグのいずれのセミナーにも発表者として参加したホ・ジェワン（許在完）教授は、日韓トンネル建設で釜山が経由地となり利益にならないという考え方を否定し、「経由地となることで韓国は北東アジ



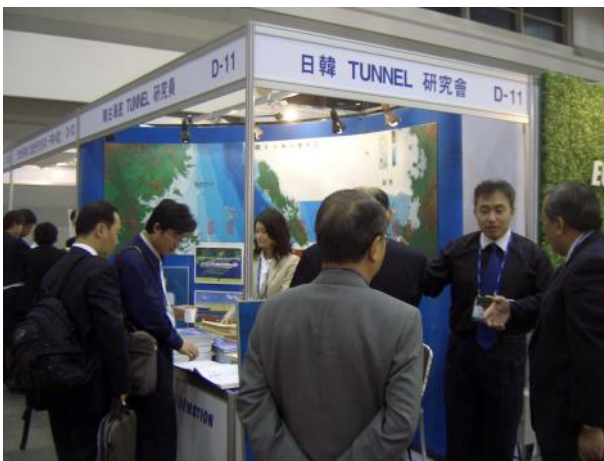
セミナー風景

アの物流中心地となる」と強く主張した。

セミナーに参加した約150名の聴衆からも質疑が続出した。野澤会長に対しては「日本側のパンフレットに『日本海』という表記があるが配慮していただきたい」という意見があり、これに対し野澤会長は「日本海という名称は地図の作り方など国際的なルールで大方の人が賛成したもので、これからも使っていきたらよいと思う」と回答した。また「日韓トンネルの工事費の分担はどうか」という質問に対し野澤会長は「工事費の分担は今後の課題であり分担の比率は協議事項」と回答した。午後4時30分にセミナーを終えた。なおセミナーの詳細は「日韓トンネル研究会年報第3号」に掲載予定である。

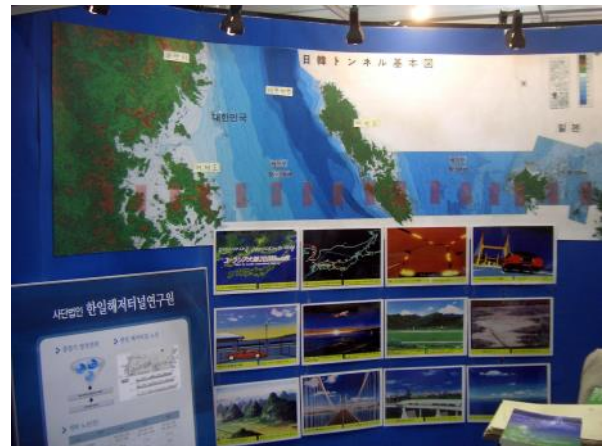
(報 告) 韓国のテグ(大邱)広域市で開かれた見本市に「日韓トンネル」を展示しました。

昨年の10月11日(木)から2日間、韓国テグ(大邱)広域市のEXCO(大邱展示コンベンションセンター)で開かれた展示会



「CIVIL EXPO 2007」にて、広く一般向けに日韓トンネルを展示した。

この展示会は社団法人大韓土木学会主催の第33回大韓土木学会定期学術大会の付帯行



展示品(上)と配布物(下)

事で、日韓トンネルブースは当会と社団法人韓日海底トンネル研究院が共同で出展した。

11日の午前11時30分から開会式があり、展示会を後援する建設交通部や大邱広域市などの関係者らが各ブースを見学した後、大韓土木学会関係者や大学教授、学生などが当会ブースを訪問した。2日間の会期中、450名が当ブースを訪れ、韓国語のパンフレットを200部配布した。展示品は当会から日韓トンネルの基本図(幅3m)1面と関連パネル12枚、社団法人韓日海底トンネル研究院からパネルが2枚である。

(記事紹介) 日韓トンネル計画に関連する新聞・雑誌掲載記事を紹介します。今回は次の1点です。

・ 読売新聞 2007年8月17日

時流/源流

日韓海底トンネル

空想にあらず

「朝の海軍は海軍...」と、かつては海軍の強国であった日本。その海軍は、戦前、日本列島から遠くまで勢力を伸ばし、太平洋の覇権を握り、世界に名を轟かせた。戦後、その勢力は縮小されたが、技術の継承から見れば、戦後には変わらぬ。日本、北米、ユーラシアを結ぶトンネルが開通すれば...

大陸への足がかり

「大陸への足がかり」... 朝の海軍は海軍... 大陸への足がかり... 朝の海軍は海軍... 大陸への足がかり... 朝の海軍は海軍... 大陸への足がかり...

戦時輸送

「戦時輸送」... 朝の海軍は海軍... 戦時輸送... 朝の海軍は海軍... 戦時輸送... 朝の海軍は海軍... 戦時輸送...

百年の計

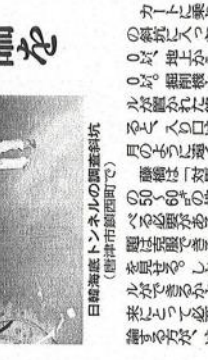
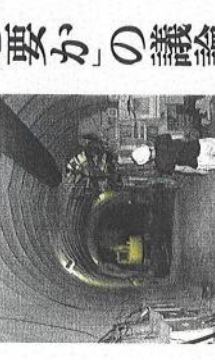
「百年の計」... 朝の海軍は海軍... 百年の計... 朝の海軍は海軍... 百年の計... 朝の海軍は海軍... 百年の計...

野望から友好の道へ

「野望から友好の道へ」... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ...

「可能か」より「必要か」の議論を

「可能か」より「必要か」の議論を... 朝の海軍は海軍... 「可能か」より「必要か」の議論を... 朝の海軍は海軍... 「可能か」より「必要か」の議論を...



朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ...

朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ... 朝の海軍は海軍... 野望から友好の道へ...